

令和3年度決算に係る

定期監査

資料

決算審査

令和4年8月

危機管理局 危機管理政策課

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁
6	決算資料（総括表）	6 頁
7	事業別実施状況調べ	7 頁
8	予備費の充用調べ	10 頁
9	現金の取扱状況	10 頁
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
10	財産に関する調べ	10 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
11	財産の貸付け及び使用許可調べ	10 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの）	
12	借受不動産明細調べ	10 頁
13	職員駐車場の管理状況調べ	11 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
14	寄附物件の受納状況調べ	11 頁
15	備品の処分状況調べ	11 頁
16	貸付金等状況調べ	11 頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等	11 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1) 指摘事項 該当なし
- (2) 監査意見 該当なし
- (3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

指 摘 事 項	措 置 て ん 末
<p>避難所の生活の質向上の取組について（口頭指摘）</p> <p>近年、気候変動に伴う豪雨などの自然災害が頻発化・激甚化する中、高齢者、障がい者など要配慮者への対応だけでなく、子どもが幼い、あるいはペット同伴などの世帯が、周囲への遠慮から避難所生活を忌避することのないよう、心理的側面を含めた適切な避難行動に結び付けていくことが課題であり、必要な資機材を必要な規模で配置するなど、避難所の生活環境を整備することが重要であります。</p> <p>令和2年度においては、避難所の生活の質向上事業により、市町村が指定する福祉避難所への段ボールベッドやテント付マンホール対応トイレ等の整備に対して支援されたほか、被災した県民への迅速な備蓄品配送のため、県備蓄倉庫の機能強化が図られたところであります。</p> <p>一方、要配慮者などさまざまな事情がある方が避難所生活を行う上では、そのニーズの多様さから、あらゆる物資をあまねく避難所に装備することは極めて困難であります。</p> <p>については、避難所環境をより一層向上させるため、避難所間や市町村間などで物資を融通し合えるような総合調整機能・体制を整えるとともに、資機材整備と併せて、訓練機会などを通じた検証にも取り組まれるべきであります。</p>	<p>要配慮者を含めたあらゆる住民が躊躇なく避難行動をとるためには、避難行動の改善だけでなく避難所の生活環境を可能な限り良好に整備することも必要であることから、本事業により、市町村が行う指定避難所及び福祉避難所の資機材整備等を引き続き支援します。</p> <p>また、県と市町村では既に連携備蓄により県域で必要備蓄品を確保しており、流通備蓄とも合わせ被災状況に応じて相互融通することとしています。</p> <p>さらに、国の物資調達・輸送調整等支援システムが構築されたことを受け、当該システムについて市町村との訓練における習熟等を通じて、円滑な物資支援体制の構築を目指します。</p> <p>なお、県内だけで対応できないほどの大災害を想定し、他県からの受援体制の充実も図っていきます。昨年度、岡山県に0次拠点を確保したところであり、今後のコロナの感染状況をみながら、災害時の物資供給オペレーション訓練も計画していきます</p>

3 職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		合計		備 考
	4.4.1 現 在	3.4.1 現 在							
定 員	9	9	1	1	0	0	10	10	
現 員	(2) 12	(2) 10	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 12	(2) 10	徳島県へ派遣1名、 徳島県から受入1名、 人と防災未来センターへ 派遣1名
過 不 足(△)	3	1	△1	△1	0	0	2	0	
臨 時 的 任 用 職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	
会 計 年 度 任 用 職 員	2	2	0	0	0	0	2	2	事務2

4 役付職員の調べ

(令和4年8月1日現在)

職 名	氏 名	在 職 期 間		備 考
危機管理局長 兼原子力安全対策監	水中 進一	年 1	月 1	
危機管理局副局長 兼原子力安全監督官	中越 康友	0	4	定数外 (消防庁から派遣)
危機管理政策課長	福田 隆	0	4	
課長補佐	黒見 恵子	2	4	
課長補佐	森岡 潤一	0	6	
課長補佐	前田 秀明	1	4	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
鳥取県災害福祉支援センター設置事業～災害時に備えた平時からの福祉支援活動への体制強化～	14,428				14,428
将来ビジョン	3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ				
令和新時代創生戦略	大項目：2. 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 鳥取+住む 中項目：(3) 支え愛 小項目：④鳥取ならではの「防災文化づくり」 SDGsゴール：11 住み続けられるまちづくりを				
政策項目	安心新時代づくり 災害支援物資配送体制や支え愛マップ・福祉避難所・Net119等を整備				
<p>1 事業の目的、概要</p> <p>○鳥取県西部地震から21年、鳥取県中部地震から5年を迎え、これまでの被災者支援等を踏まえ、全国に先駆けて『鳥取県災害福祉支援センター』を県が設置（県社会福祉協議会内）し、災害ケースマネジメント(※)を全県展開し、災害に強い地域づくりを進めるとともに、SDGsの理念にもある「誰一人取り残さない持続可能な地域社会づくり」に取り組む。</p> <p>(※)被災者一人ひとりに寄り添い、個別の被災状況、生活状況を把握して、課題に応じた支援策を組み合わせ、連携して支援する取組</p> <p>○災害に備え平時からの体制整備を進めるとともに、発災後、被災市町村における被災者支援活動について、県内圏域等への広域支援の体制を整備する。</p> <p>○県民が「災害」について考え、地域における課題を自分のこととして捉え、そして、みんなが自分の行動を起こす“力”を高めることで、地域福祉の向上につなげる仕組みづくりを進める。</p> <p>2 事業の内容、実施の状況</p> <p>○センターの主な機能と実施の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ケースマネジメントの普及（啓発研修、普及に関する検討会） →啓発研修の実施、市町村への個別説明の実施、普及検討会への参加 ・災害時において、地域での見守り活動や生活復興支援に取り組んだ経験のある団体等との連携 →中部地震の復興支援のためのボランティア活動を支援（活動に係る連絡調整等） ・支え愛マップづくりに取り組む地域住民の防災活動への協力・支援 →地区の避難訓練への講師派遣等（湯梨浜町、境港市） ・災害派遣福祉チーム（DWA T）(※)の組成と研修（基礎・スキルアップ研修、関係機関連絡会） (※)発災後に避難所等で介護や相談、サービス利用の調整などの福祉的支援を行う小集団（県が派遣） →DWA T登録者数管理（R3年度末登録者数：52名） →基礎研修（2回）、スキルアップ研修（1回）の実施 ・広域支援のための応援職員体制の整備（DWA T等派遣に関する応援、受援円滑化検討会） →受入先となる避難所を設置する市町村を回りDWA Tを周知するとともに、資機材を整備 <p>○専門職員の配置</p> <p>災害ケースマネジメントや要配慮者の避難生活移行の福祉等体制づくりに取り組む専門職員を配置する。</p> <p>3 事業成果（改善状況）・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ケースマネジメント及びDWA Tについて、関係機関を個別訪問しての説明、研修会の開催等により、関係機関の理解が深まった。 ・災害ケースマネジメントについては、制度の社会実装（全県展開）に向けて、具体的な手順を記した手引きを作成する等して、実施体制の整備を図っていく必要がある。 ・DWA Tについては、引き続き、登録者数の増加を図るほか、市町村が実施する避難所運営訓練に参加する等して、練度向上と、住民への周知による円滑な活動環境の形成を図る必要がある。 					

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳																			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源																
避難所の生活の質向上事業	1,069				1,069																
将来ビジョン	3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ																				
令和新時代創生戦略	大項目：2. 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 鳥取+住む 中項目：(3) 支え愛 小項目：④鳥取ならではの「防災文化づくり」 SDGsゴール：11 住み続けられるまちづくりを																				
政策項目	安心新時代づくり 災害支援物資配送体制や支え愛マップ・福祉避難所 ・Net119等を整備																				
<p>1 事業の目的、概要</p> <p>平成30年7月豪雨において、事前避難の重要性を再認識させられたにもかかわらず、令和元年東日本台風においても多くの住民が逃げ遅れることとなった。</p> <p>令和元年東日本台風災害を受けて設置した鳥取県防災避難対策検討会においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットがいる、子供が小さい、障がいがある、寝たきり等により避難所に行くことができず、在宅避難や車中避難を余儀なくされる人がいる。 ・「避難所の環境が良くない。避難所生活は辛いもの。」という認識が一般化している。 ・環境の悪い避難所生活、車中避難が避難者の健康を損なっている。(エコノミークラス症候群等)との指摘があった。 <p>住民に避難行動を起こさせるとともに、避難所で災害関連死を発生させないためには、これらの課題を解決する必要があることから、指定避難所、福祉避難所の資機材整備等に補助することにより、「あらゆる人が避難しやすい避難所環境の確保」及び「発災時の早急な被災住民の生活環境の改善」を図る。</p> <p>2 事業の内容、実施の状況</p> <p>(1) 市町村への補助事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>予算額 (前年度予算)</th> <th>補助率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指定避難所生活環境整備支援事業</td> <td>指定避難所での福祉スペース確保など、要配慮者に対応するために必要な資機材の整備について補助する。</td> <td>1,350千円 (2,400千円)</td> <td>1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)</td> </tr> <tr> <td>福祉避難所事前配置資機材整備事業</td> <td>市町村が指定する福祉避難所に災害時に必要な備品等を事前配置する市町村に対して支援を行う。</td> <td>1,800千円 (2,250千円)</td> <td>1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>3,150千円 (4,650千円)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 避難訓練の実施 予算額：200千円(前年度予算：－円) …ボランティア保険代</p> <p>これまで障がい児・者(医療的ケア)が参加する訓練経験が少なく、要配慮者が福祉避難所に避難した場合の医療体制や必要な備品等(県、市町村備蓄)についての不安が大きいため、県と大学が協力して訓練を行う。</p> <p>3 事業成果(改善状況)・課題等</p> <p>市町村への補助事業は継続して活用されており、要配慮者はもとより、住民の誰もが安心して避難できる体制づくりが着実に進んでいる。</p> <p>避難所に求められる環境、資機材及び備品等のニーズは、年々多様化しており、避難所の生活の質の向上等について、市町村及び関係団体等と連携しながら推進していく必要がある。</p>						区分	内容	予算額 (前年度予算)	補助率	指定避難所生活環境整備支援事業	指定避難所での福祉スペース確保など、要配慮者に対応するために必要な資機材の整備について補助する。	1,350千円 (2,400千円)	1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)	福祉避難所事前配置資機材整備事業	市町村が指定する福祉避難所に災害時に必要な備品等を事前配置する市町村に対して支援を行う。	1,800千円 (2,250千円)	1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)	合計		3,150千円 (4,650千円)	
区分	内容	予算額 (前年度予算)	補助率																		
指定避難所生活環境整備支援事業	指定避難所での福祉スペース確保など、要配慮者に対応するために必要な資機材の整備について補助する。	1,350千円 (2,400千円)	1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)																		
福祉避難所事前配置資機材整備事業	市町村が指定する福祉避難所に災害時に必要な備品等を事前配置する市町村に対して支援を行う。	1,800千円 (2,250千円)	1/2 (1ヶ所当たり150千円を上限とする。)																		
合計		3,150千円 (4,650千円)																			

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
支え愛マップ作成推進事業	3,437				3,437
将来ビジョン	3 守る 豊かな恵み・生活を守り、次代につなぐ				
令和新時代創生戦略	大項目：2. 人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 鳥取＋住む 中項目：(3) 支え愛 小項目：④鳥取ならではの「防災文化づくり」 SDGsゴール：11 住み続けられるまちづくりを				
政策項目	安心新時代づくり 災害支援物資配送体制や支え愛マップ・福祉避難所・Net119等を整備				
1 事業の目的、概要					
<p>鳥取県では鳥取県中部地震や平成29年の豪雪時に人と人との絆を基調とした住民同士の助け合い、支え合いが多く行われており、平成29年度には鳥取県防災及び危機管理に関する基本条例に「支え愛避難所への支援」を明記するなど、「災害時支え愛活動」を推進している。</p> <p>また、平成30年7月豪雨や令和元年東日本台風でも地域の防災力の強化が被害の軽減につながることが明らかになり、昨今の災害の頻発化もあり、その重要度は年々増している。</p> <p>防災意識が高まっているこの時期を逃すことなく、市町村及び市町村社会福祉協議会を中心とした支え愛マップづくり(*)の推進を通じて、災害時の要支援者への支援を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進する。</p> <p>(*)支え愛マップづくりとは、地域住民が主体となって、独居高齢者、要介護者及び障がい者などの支援を要する者に対する災害時の避難支援の仕組みづくり。</p>					
2 事業の内容、実施の状況					
項目	区分	内容	事業主体	形態	予算額 (前年度予算)
人材活用	防災士等の活用	「支え愛マップづくり」に取り組む自治会等へ助言などを行う専門家(防災士等)への謝金	防災士等	補助	400千円 (400千円)
災害時の要支援者対策	要支援者対策促進事業	「支え愛マップづくり」に取り組む自治会等への助成	自治会等	補助	1,500千円 (1,500千円)
	住民組織間交流事業	既に取り組んだ自治会等が他地区へ普及啓発する取組への助成	自治会等	補助	60千円 (60千円)
	ステップアップ事業	既に取り組んだ自治会等が仕組みづくりを具体化する取組への助成	自治会等	補助	1,300千円 (1,300千円)
	モデル事業	支え愛マップづくりに加え、支え愛避難所の活用や避難訓練などを通じた地域の支え愛活動への助成	自治会等	補助	150千円 (150千円)
	関係者連絡会開催事業	知識向上及び先進的な取組、情報交換を図る等の連絡会の開催	県社協	補助	750千円 (750千円)
	活用事例集作成事業	先進的な取組や取組が活かされた事例の収集、事例集作成	県社協	補助	100千円 (100千円)
	(新規)個別支援計画作成事業	要配慮者の個別支援計画の作成を市町村の努力義務とする方針で災害対策基本法の改正が検討されており、市町村が福祉職等との連携して避難行動の支援が必要な方々の避難体制を確立させるよう計画作成を支援	市町村等	補助	950千円 (一千円)
人材育成等	人材育成研修	市町村社協、市町村職員等へのマップ作成支援能力の向上研修の開催経費を県社協へ助成	県社協	委託	1,603千円 (1,448千円)
	意識啓発研修	活用事例や基礎知識を学び、マップ作成に取り組む地域を増やす研修の開催経費を県社協へ助成	県社協	委託	446千円 (451千円)
	避難所運営リーダー研修	地域の防災の担い手を「避難所運営リーダー」として指導・育成する、市町村職員向け研修会も実施	鳥取県	直営	360千円 (360千円)
ハザードの見える化	ハザード画像の作成及び浸水CG等作成	「支え愛マップづくり」に取り組む地域の浸水等画像作成への助成及び浸水表示3Dハザードマップの制作委託	市町村社協 民間委託	補助 委託	完了 (5,477千円)
合計					7,619千円 (11,996千円)
<p>支え愛マップづくり(促進事業)が32地区、支え愛マップの更新や避難訓練の実施(ステップアップ事業)が8地区、住民組織間交流事業が3地区で、それぞれ取り組まれた。</p> <p>また市町村等の人材育成研修は、60人、住民向けの啓発研修は6回開催し、95人が参加し、支え愛マップづくりに関わる人材の育成を図ることができた。</p> <p>避難所運営リーダー研修については、消防防災課の地域防災リーダースキルアップ研修と連携し</p>					

て実施した。県内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、7月24日にオンラインによる開催に変更し20人が参加した。

3 事業成果（改善状況）・課題等

令和3年度に補助制度を活用して、支え愛マップづくりに取り組んだ地区（促進）は32地区であったが、独自に支え愛マップづくりに取り組んだ地区が16地区あり、独居の高齢者や障がい者など、災害時に支援を要する者への避難支援の仕組みづくりが着実に進んでいる。

一方で、地域がハザード上になく防災意識の低い地区や、地域コミュニティが失われつつある地区への意識の醸成、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、住民による話し合いを通じた支え愛マップづくりに不安を感じている人が多いことなどから、有事に備えた体制づくりが進んでいない地区が多いことも課題である。

また、令和3年度には、日頃から要支援者の見守りなどを行っている民生委員に対し、啓発研修を開催し、支え愛マップづくりへの理解が広がるよう努めたが、新たな地区の掘り起こしや、支え愛マップを活用した避難訓練の取組みなどに繋がらなかった。

6 決算資料
一般会計(歳入)

(単位:円)

区分	科目	予算			現額			調定額 A	収入済額 B	不納欠損額 C	収入未済額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	計	継続費及び 繰越事業費	繰越財源充当額	計					
歳入	総務費国庫補助金	8,331,000	0	8,331,000	0	0	2,768,669	2,768,669	0	0	・原子力安全対策課の会計年度任用職員1人分の人件費	
	原子力防災対策基金繰入金	101,771,000	0	101,771,000	0	0	95,935,705	95,935,705	0	0	・原子力安全対策課職員12.5人分の人件費	
	雑入	128,000	0	128,000	0	0	179,747	179,747	0	0	内訳は次のとおり ・職員の過年度扶養手当 ・返納(53,398円) ・会計年度任用職員の雇用保険料(126,349円)	
	合計	110,230,000	0	110,230,000	0	0	98,884,121	98,884,121	0	0		

一般会計(歳出)

(単位:円)

区分	科目	予算現額			支出済額の内訳			支出済額 (決算額) B	翌年度繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	計	本庁	出納機関					
歳出	一般管理費	0	0	301,790	301,790	0	301,790	0	0	0	
	防災総務費	425,372,000	21,061,000	446,433,000	415,050,348	0	415,050,348	10,700,000	20,682,652		
	工鉱業総務費	37,824,000	2,846,000	40,670,000	40,048,849	0	40,048,849	0	621,151		
	合計	463,196,000	23,907,000	487,404,790	455,400,987	0	455,400,987	10,700,000	21,303,803		

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算現額					計 A	支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果・ 繰越、不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減							
(一般管理費)	0	0	0	(301,790)	(301,790)	(301,790)	(301,790)	0	100%		・赴任旅費の配当
目計	0	0	0	(301,790)	(301,790)	(301,790)	(301,790)	0	100%		
(防災総務費)											
職員人件費	360,812,000	31,154,000	0	0	391,966,000	383,944,762	0	8,021,238	98%		・局一般職員44人分及び 会計年度任用職員17人分
(主)鳥取県災害 福祉支援センター 一設置事業～ 災害時に備えた 平時からの福祉 支援活動への体 制強化～	15,561,000	0	0	0	15,561,000	14,427,326	0	1,133,674	93%		・主な事業に関する調べ のとおり
積極的避難推進 事業	1,224,000	△ 1,000,000	0	0	224,000	36,000	0	188,000	16%		・主な事業に関する調べ のとおり ・不用理由(3割)：リモー ト会議システムの活用によ り旅費が不要となった こと等による。
(主)避難所の生 活の質向上事業	3,350,000	△ 1,201,000	0	0	2,149,000	1,068,100	0	1,080,900	50%		・主な事業に関する調べ のとおり ・不用理由(3割)：市町村 の補助金活用が見込みよ り少なかったため。
鳥取県地震津波 対策推進事業	8,819,000	△ 6,819,000	0	0	2,000,000	1,778,000	0	222,000	89%		・津波対策市町村支援交 付金による事業助成によ り、津波対策を進めた。

(単位：円)

事業名	予算現額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 繰越、不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
広域支援体制整備 総合事業	14,720,000	0	0	0	14,720,000	1,237,500	10,700,000	2,782,500	8%	・被災地支援への移動のため公用車の借り上げや職員派遣に当たったの感染症対策の強化としてPCR検査を実施した。 ・繰越の理由＞積雪深計を設置するため、設置候補地の現地確認を行っていた際に新型コロナウイルスの第5波が直撃し現地調査中止を余儀なくされたため、現地調査終了が10月初旬となった。そのため年度内設置が困難となり繰越を行ったもの。
鳥取県中部地震 5年フォローアップ 事業	2,702,000	△ 713,000	0	0	1,989,000	1,859,000	0	130,000	93%	・10月21日に鳥取短期大学・鳥取看護大学において開催、学生約350人が参加し、同時にWEB配信(基調講演・分科会・炊き出し・ブース設置)
(主) 支え愛マツ ブ作成推進事業	7,619,000	△ 360,000	0	0	7,259,000	3,436,550	0	3,822,450	47%	・主な事業に関する調べのとおり ・不用理由(3割)：市町村等の補助金活用が見込みより少なかったため。

(単位：円)

事業名	予算現額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・成果、 繰越、不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
防災体制整備事業	10,565,000	0	0	0	10,565,000	7,263,110	0	3,301,890	69%	・海域活断層の長期評価 公表に係る比較検証会議 等を行い、防災対策の推 進に努めた。 ・不用理由(3割)：災害が 想定より少なかったこと により、防災顧問に関す る経費等が不要となつた ため。
目計 (工鉦業総務費)	425,372,000	21,061,000	0	0	446,433,000	415,050,348	10,700,000	20,682,652	93%	
職員人件費	37,824,000	2,846,000	0	0	40,670,000	40,048,849	0	621,151	98%	・局一般職員5人分及び会 計年度任用職員1人分 (いずれも消防防災課)
目計	37,824,000	2,846,000	0	0	40,670,000	40,048,849	0	621,151	98%	
合計	463,196,000	23,907,000	0	0	487,103,000	455,099,197	10,700,000	21,303,803	93%	

8 予備費の充用調べ
該当なし

9 現金の取扱状況
(1) 現金取扱状況
該当なし

(2) つり銭の状況
該当なし

10 財産に関する調べ
(1) 公有財産
該当なし

(2) 金券類の保有状況
ア 金券の保有状況
有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

(令和4年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本年度中		本年度末未使用枚数
	購入枚数	使用枚数及び金額	
20枚	0枚	1枚	19枚
		2,630円	
66枚	0枚	4枚	62枚
		23,280円	

(3) 基金
該当なし

(4) 債権
該当なし

11 財産の貸付け及び使用許可調べ
(1) 土地及び建物
該当なし

(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの）
該当なし

12 借受不動産明細調べ
該当なし

- 13 職員駐車場の管理状況調べ
 - (1) 管理状況
該当なし
 - (2) 減免の考え方（減免を行った場合のみ）
該当なし
 - (3) 使用料の見直し
該当なし
- 14 寄附物件の受納状況調べ
該当なし
- 15 備品の処分状況調べ
該当なし
- 16 貸付金等状況調べ
 - (1) 総括表
該当なし
 - (2) 償還状況
該当なし
- 意見、要望等
 - (1) 業務に関する意見・要望等
該当なし
 - (2) 監査委員事務局に対する要望等
該当なし